

ISSN 1345-9961

動物遺伝育種研究

The Journal of Animal Genetics

第 53 卷 2 号
2025 年 8 月



日本動物遺伝育種学会

Japanese Society of Animal Breeding and Genetics

日本動物遺伝育種学会

日本動物遺伝育種学会（Japanese Society of Animal Breeding and Genetics）は統計遺伝学と分子遺伝学を統合的に発展させ、より高度な育種戦略を構築するとともに、DNA 情報を利用する産業やライフサイエンスへも貢献できる体制を整えることを目的として組織された学会である。この目的のために家畜・家禽、実験動物、野生動物、水産動物などの各種動物についての分子生物学や遺伝育種学並びに育種の実際、遺伝資源の保存と利用などに関する研究および技術開発を推進し、研究者・実務者相互の交流と協力並びに成果の普及を図る。

会 長 横井伯英

副会長 下桐 猛・谷口雅章

理 事 石井和雄・石川 明・小川伸一郎・尾崎照遵・小野木章雄・菊池 潔・口田圭吾・後藤達彦・坂本 崇・笹崎晋史・佐々木慎二・高橋幸水・竹嶋伸之輔・戸崎晃明・中嶋正道・西堀正英・西尾元秀・野村こう・福井えみ子・福田智一・松本大和・万年英之・村山美穂・山縣高宏・米澤隆弘・渡邊敏夫・渡邊 学

監 事 間 陽子・荒川愛作

会員・会費

会員は学会誌「動物遺伝育種研究」（年 2 号）を受け、年次大会の参加費を割引かれる。
会費：普通会员 2000 円（入会金）5000 円（年会費）、学生会員 3000 円（年会費のみ）、購読会員 10000 円、賛助会員 1 口 10000 円。

学会誌への投稿

投稿規程は本号末尾に示すとおりである。動物（家畜、家禽、実験動物、野生動物、魚類など）の遺伝育種分野の研究と技術の発展に寄与する内容のものを歓迎する。

日本動物遺伝育種学会に入会希望の方はホームページ（<https://www.jsabg.org/>）にてお申し込み下さるか、下記事務局へご連絡下さい。

日本動物遺伝育種学会事務局

〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科 動物遺伝育種学分野

TEL: 075-753-6331 FAX: 075-753-6340

E-mail: support@jsabg.sakura.ne.jp

事務局からのお知らせ

《年会費納入のお願い》

2024 年度会費を請求いたします。普通会员会費（5,000 円）、学生会員会費（3,000 円）を、9 月末日までにご納入くださいますようお願い申し上げます（本学会の 2024 年度会計年度は 2024 年 10 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日までとなっております）。学会費の振り込みには、郵便局の払込取扱票による郵便振替もしくは銀行振込をご利用ください。郵便振替、銀行振込では必ず会員本人の氏名を記載してください。

日本動物遺伝育種学会では円滑な運営を計るため、未納会費の徴収を進めています。未納年度が記載されたメールを受け取られた方は、2024 年度会費とあわせてご納入下さい。なお、会費滞納をいたしますと会報発送の停止・自然退会となってしまいますので、この点につきましてご留意ください。

<振込先>

○郵便振替

口座番号：00940-6-154633 加入者名：日本動物遺伝育種学会

○銀行振込

ゆうちょ銀行 ○九九 支店

口座番号：当座 0154633 口座名義：日本動物遺伝育種学会

《住所・勤務先などを変更された会員の方へ》

住所・勤務先などを変更された方は、E-mail、FAX または郵送にて学会事務局へご連絡ください。

《退会ご希望の会員の方へ》

退会をご希望なされる方は、E-mail、FAX または郵送にて学会事務局へご連絡ください。

指導教官の先生方へ：卒業生(学生会員)の方で、会報が送付されている場合がありますら、お知らせください。事務局で住所変更または退会の手続きを行います。

《「動物遺伝育種研究」誌 事務局からのお知らせ欄に掲載ご希望の皆様へ》

「学術集会案内」、「研究助成応募」および「教官等公募」などの記事を「動物遺伝育種研究」誌（54 巻 1 号：2026 年 2 月発行予定）へ無料で掲載いたします。原稿締切りは 11 月末日（必着）です。原稿は E-mail（jsabg@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp）にてご送付ください。

《投稿のお願い》

「動物遺伝育種研究」（54 巻 1 号）の出版は 2026 年 2 月を予定しています。審査の必要のない原稿の締切りは 11 月末日とします。なお、審査の必要な原稿は常時受付けています。皆様奮っての投稿をお待ちします。投稿についての詳細は投稿規程をご覧ください。

◆日本動物遺伝育種学会第26回大会開催のご案内◆

第26回大会につきましては、十文字学園女子大学（埼玉県新座市）にて対面での開催を予定致しております。是非ともご参加いただきますようお願い致します。詳細は、学会ホームページで随時お知らせする予定です。

1. 日本動物遺伝育種学会第26回大会

日時：2025年11月29日（土）

場所：十文字学園女子大学（埼玉県新座市菅沢2-1-28）

2. 日本動物遺伝育種学会シンポジウム

テーマ：Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD) 学説と遺伝育種（仮題）

日時：2025年11月30日（日）

場所：十文字学園女子大学

9：00～11：50 講演

11：50～12：00 総合討論

3. 委員会・理事会の開催

円卓理事会 2025年11月28日（金）

場所：十文字学園女子大学

4. 大会運営組織

日本動物遺伝育種学会第26回大会実行委員会

大会長：竹嶋伸之輔（十文字学園女子大学）

副大会長：間 陽子（東京大学）・飯村九林（十文字学園女子大学）

大会実行委員長：松浦遼介（東京大学）

目 次

会告・記事	1
会 則	14
投稿規程	16
ミニレビュー執筆手引き	18


(J-STAGE)

原著論文

褐毛和種高知系における 12 遺伝子の多型のアレル頻度の調査

大江 美香, 小林 栄治, 濱田 和希, 中西 慶太, 竹中 由布, 松川 和嗣

2025 年 53 卷 2 号 p. 11-20

 <https://doi.org/10.5924/abgri.53.11>

日本動物遺伝育種学会 会告・記事

日本動物遺伝育種学会 円卓理事会(2024年度)・第27回企画運営委員会議事録

日 時：2024年11月22日(金) 16:00～18:00

場 所：東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟 会議室1

出席者：間 陽子、荒川愛作(総務)、後藤達彦(総務)、笹崎晋史、下桐 猛(副会長)、谷口雅章(総務)、戸崎晃明、中嶋正道、西尾元秀(会計)、西堀正英(会長)、福田智一、松本大和、横井伯英(副会長)

委任状：石井和雄、石川 明、大山憲二、小川伸一郎、尾崎照遵、菊池 潔、小林栄治、坂本 崇、佐藤正寛、高橋幸水、竹嶋伸之輔、野村こう、福井えみ子、万年英之、美川 智、村山美穂、山縣高宏、米澤隆弘、渡邊敏夫、渡邊 学

定足数：19名

出席者数(委任状を含む)：33名

事務局：荒川愛作(総務) 後藤達彦(総務)、西尾元秀(会計)

議 長：西堀正英(会長)

書 記：後藤達彦(総務)

定足数の確認

事務局総務より定足数の確認が行われた。理事・監事の総数は38名であり、定足数はその1/2で19名となる。出席者および委任状の数は33名であり、本理事会は成立していることが確認された。

議 題

1. 第13期(任期2024年10月1日～2026年9月30日)学会理事・監事選挙結果報告

事務局総務より、選挙結果の報告がなされた。今回初めて、電子投票システム i-Vote を用いた選挙が行われた。会員107名からの投票があり、理事20名、監事2名が選ばれ、その後、指名理事10名が選ばれた。その旨が報告され、承認された。

2. 新会長・新副会長候補者について

運営申し合わせ、B. 役員の選出に関する事項、「3-1) 会長および副会長候補者の選出方法は、当面、新旧合同理事会において旧会長の提示した方法をもとに審議し、その都度決定する。」に従い、西堀会長より、新会長として横井伯英会員、副会長として下桐 猛会員および谷口雅章会員が推薦された。審議の結果、承認された。

3. 2023年度事業報告(案)(資料1)

事務局総務および会計から、資料1のとおり2023年度事業報告がなされた。会員異動について、一昨年度に誤って退会処理を行ってしまったことが判明したため、それに伴う修正が行われたこと

が報告された。審議の結果、原案のとおり承認された。

4. 2023 年度一般会計収支決算報告（案）および特別会計収支決算報告（案）（資料 2, 3）

事務局会計から、資料 2, 3 のとおり 2023 年度決算報告がなされた。会費の未払いや過払い等があったこと、特別会計に計上されていた教科書出版支援は次年度に持ち越しとなったことが報告された。監査の間会員より、一般会計および特別会計は適正に運用されていることの確認ができたこと報告された。審議の結果、原案のとおり承認された。

5. 2024 年度事業計画（案）（資料 4）

事務局総務から、資料 4 のとおり 2024 年度事業計画が報告された。審議の結果、原案のとおり承認された。

6. 2024 年度一般会計予算（案）および特別会計予算（案）（資料 5, 6）

事務局会計から、資料 5, 6 のとおり報告がなされた。予算案に関連する事項として、既にこれまでの理事会で承認されている学会誌のオンライン化に関して笹崎編集委員長より説明がなされた。次号の学会誌から、これまで通り会誌の製本および郵送を行う場合とオンライン化を行う場合を比べると、約 40 万円程度の予算削減が可能であることの見積書が準備されていること、2025 年 2 月発行予定からオンライン化に変更する準備が整っている状況が説明された。学会誌のオンライン化が 2024 年度に実施される場合は、予算案を変更する必要があることが確認された。

また、電子投票システム i-Vote での選挙実施が遅れたことに伴い、利用料の支払いが学会年度を跨いだことから、2024 年の予算案に「電子投票 2023 年度」を事業費に加えることが確認された。審議の結果、原案のとおり承認された。

7. その他： 学会誌のオンライン化について

議題 6 において、学会誌のオンライン化に関して、いつから実施するのかを追加議題として議論した。第 53 巻 1 号（2025 年 2 月発行予定）あるいは第 53 巻 2 号（2025 年 8 月発行予定）からオンライン化を進めるのか、2025 年度は会員への周知を進めた上で 2026 年度にオンライン化を実施するのか議論された。

これまでは製本された学会誌を送付する際に、封筒に付けるシールに各会員の会費の未納状況をお知らせすることによって、未払い状況を会員に直接お知らせし催促できる効果があった。216 人の会員の 20-30%程度が主に 1 年の未納が出る傾向があるため、会費の回収は学会運営において重要な位置付けにあることが確認された。最長の未納は 6 年程度であり、数年間の未納が多数を占める状況であることも紹介された。運営申し合わせ、A 会費に関する事項「1-1）1 ヶ年を超えて会費未納の正会員には学会誌の配布を停止する。1-2）2 ヶ年を超えて会費未納の正会員は特別の事情がない限り自然退会とみなす。」などと示されているが、学生会員については「2 ヶ年を超えて会費未納は自然退会とみなす」で良いが、正会員に関しては追跡して継続的に事務局から支払いを求めるようにするという方針が確認された。

オンライン化に変更した場合は、これまでの学会誌の郵便物の到着がないため、いつ発行されたかが会員には分からないため、事務局からメールでお知らせすることとなった。冊子体の学会誌は論文部分と会員へのお知らせや議事録などの論文以外の部分があるが、オンライン化に伴ない、論文部分の PDF と論文以外の部分の PDF を別々に管理することとなった。論文部分は J-STAGE で公開され、論文以外の部分は学会員に対してメール添付で送付すること、学会 HP にアーカイブ化をしていくことが確認された。

会費の催促に関しては、学会運営の肝となるため、事務局からメールでの催促を行うこととなった。エクセルでソートすることで1年未納の皆さんへの一斉送信、2年未納、3年未納のグループ等とすることで事務処理の負担を低減させていく工夫が確認された。

審議の結果、2025年2月発行から学会誌の完全オンライン化を開始することとなった。また、「学会誌のオンライン化のお知らせ」を全会員にハガキで郵送、周知することとなった。これに伴い、議題6の2024年度の会計予算案を修正することとなった。

報告

1. 第26回（2025年）年次大会の開催について（資料7）

事務局総務から年次大会の説明がなされた。間会員より、副大会長を担当する旨と十文字学園女子大学の位置する埼玉県新座市についての補足説明がなされた。現在のところ、11月下旬の週末に開催予定ということで設定されているが、大学の入試スケジュールが決定された後に具体的なスケジュール調整を進める予定であることが紹介された。2025年8月発行の学会誌の出版のタイミングで詳細情報を周知できると良いため、6月には日程を決められると良いことが確認された。

2. 量的遺伝学の教科書の出版について

教科書の執筆状況について、横井会員および荒川会員より紹介された。この数カ月で編集を進め、京都大学学術出版会へ初校を提出し、その際に出版補助費を支払う段取りで計画されている。2024年度の最終月である9月までに予算執行することを目標として進めることとなった。

3. その他

特になし。

協議

1. 電子投票における選挙管理委員について

2024年の選挙では初めて電子投票システムにより行われ、会長に指名された事務局総務の荒川会員および後藤会員が、i-Voteの管理者としてログインして設定等を進めた。i-Voteのシステムを利用するだけの最安のプランを選択したため、60ページに及ぶプロトコル5個程度を精読しつつ設定を進める必要があり、PC操作に長けている会員がある程度の時間をかけて行う必要があることが判明した。これまでの郵送による選挙と比較すると、事務処理量の大幅な低減が可能になったことが説明されたが、運営申し合わせに記載のない「選挙管理委員を設定すること」に関して議論された。

運営申し合わせのB. 役員の選出に関する事項、「2-3）開票は、会長が理事・監事候補者名簿にない会員2名を指名し、その立会いのもとで行う。」は、郵送による開票に関するものであった。電子投票システムでは実質的に開票の作業は存在しないが、i-Voteの管理者だけが投票結果を確認できる状況にあり、i-Voteでは、管理者としてログインできる人数が3名であった。今回の電子投票システムでは理事・監事にあたる事務局総務が運用を行ったため、運営申し合わせの記載を電子投票にも対応できるように、以下のように変更することとなり、審議の結果、認められた。

＜旧＞ 2-3）開票は、会長が理事・監事候補者名簿にない会員2名を指名し、その立会いのもとで行う。

＜新＞ 2-3）開票は、会長が指名する会員3名程度を選挙管理委員として指名し、実施す

る。」

2. その他： 学会誌の将来のあり方について

前編集委員長である福田会員から、学会誌に関する将来について、継続的に議論していく必要があることが提案された。将来的に、PubMed Central に登録されることを目指すとする、まずは英語のみで構成される学会誌にしていく必要や、投稿システムを設定する必要等がある。日本家禽学会ではPubMed Central への登録やインパクトファクター取得に関連して、50 万円規模の予算を使って対応していることが紹介された。日本家禽学会の Journal of Poultry Science や日本畜産学会の Animal Science Journal は、ScholarOne や Wiley の投稿システム Manuscript Central を使用しており、それを使うためには予算が必要であることが紹介された。中嶋会員から、日本水産学会では学会誌を英文と和文に分けて、日本国内の情報を集める目的で和文を利用している事例の紹介や、戸崎会員からは、日本ウマ科学会においても英文と和文を分けて運用されており、英文の Journal of Equine Science はPubMed Central 登録後に投稿数が増えた事例が紹介された。福田会員から、インパクトファクターは企業が出しているものであるため、お金を要求されることと、安定した投稿数が重要視されることが確認された。まずは、PubMed Central 登録に向けて進める場合は、英文のみに設定して、投稿システムの様式を整える必要があるということで、理事会において継続的に議論していくこととなった。

第13期(任期2024年10月1日～2026年9月30日)学会理事・監事選挙結果

開票:2024年10月30日

電子投票システム: ウェブ選挙システム「i-Vote」

投票総数: 理事選挙 107 票、監事選挙 107 票

有効票数: 理事選挙 107 票、監事選挙 107 票

無効票数: 理事選挙 0 票、監事選挙 0 票

第13期(任期2024年10月1日～2026年9月30日)学会理事・監事(50音順)

理事定員 20 名		所 属
1	石井 和雄	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門
2	石川 明	名古屋大学大学院生命農学研究科
3	尾崎 照遵	(国研)水産研究・教育機構
4	小野木 章雄	龍谷大学農学部
5	口田 圭吾	帯広畜産大学生命・食料科学研究部門家畜生産科学分野
6	後藤 達彦	帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター
7	坂本 崇	東京海洋大学海洋科学部
8	笹崎 晋史	神戸大学大学院農学研究科
9	佐々木慎二	琉球大学農学部
10	下桐 猛	鹿児島大学共同獣医学部
11	竹嶋 伸之輔	十文字学園女子大学人間生活学部
12	谷口 雅章	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門
13	戸崎 晃明	(公財)競走馬理化学研究所
14	西堀 正英	広島大学大学院統合生命科学研究科
15	野村 こう	東京農業大学農学部
16	福井 えみ子	宇都宮大学農学部
17	万年 英之	神戸大学大学院農学研究科
18	村山 美穂	京都大学野生動物研究センター
19	横井 伯英	京都大学大学院農学研究科
20	渡邊 敏夫	(一社)家畜改良事業団家畜改良技術研究所

監事定員 2 名		
1	間 陽子	東京大学大学院農学生命科学研究科
2	荒川 愛作	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門

指名理事(会長依頼、10名以内)		
1	小川 伸一郎	京都大学大学院農学研究科
2	菊池 潔	東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所
3	高橋 幸水	東京農業大学農学部
4	中嶋 正道	東北大学大学院農学研究科
5	西尾 元秀	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門
6	福田 智一	岩手大学農学部

7	松本 大和	東海大学農学部動物科学科
8	山縣 高宏	名古屋大学大学院生命農学研究科
9	米澤 隆弘	広島大学大学院統合生命科学研究科
10	渡邊 学	東京大学大学院新領域創成科学研究科

2023 年度事業報告 2023. 10. 1－2024. 9. 30

1. 年次大会（第 24 回）の開催

日 時：2023 年 11 月 18 日（土）-19 日（日）

開催担当：東海大学 阿蘇くまもと臨空キャンパス

大会運営組織 大会長：今川 和彦（東海大学）

実行委員長：松本 大和（東海大学）

実行委員：稲永 敏明（東海大学）

・プログラムの概要

2023 年 11 月 18 日（土）

日本動物遺伝育種学会 第 24 回年次大会

特別賞選考対象発表（ポスター発表・口頭発表）・一般発表（ポスター発表）

総会、懇親会

2023 年 11 月 19 日（日）

日本動物遺伝育種学会シンポジウム

テーマ：小さいものから大きなものへ

～ポストコロナ時代のウィルス・微生物学～

2. 2023 年度円卓理事会

2023 年度円卓理事会

2023 年 11 月 17 日（金）東海大学 阿蘇くまもと臨空キャンパス

3. 学会誌の発行

第 52 巻 1 号（2024 年 2 月発行）

第 52 巻 2 号（2024 年 8 月発行）

4. 2024 年度日本動物遺伝育種学会・在来家畜研究会合同シンポジウムの開催

2024 年 9 月 19 日（木）に京都大学農学部総合館にて開催した。

テーマ：量的遺伝学の理論と実践

世話人：小野木 章雄（龍谷大学）、横井 伯英（京都大学）

5. 会員の異動

	名誉会員	普通会員	学生会員	購読会員	賛助会員
2023 年 10 月 1 日	9	159	37	4	10
入会	—	5	16	—	—
退会	—	5	5	1	1
会員種別変更	—	—	—	—	—
2024 年 9 月 30 日	9	159	48	3	9

注：2023 年度に誤って退会処理していた会員が 7 名（普通会員 1 名、学生会員 6 名）分あったため、2023 年 10 月 1 日現在の会員数が昨年度の資料と異なっている。

(資料 2)

2023 年度一般会計 収支決算報告 (案) 2023. 10. 1－2024. 9. 30

科目	予算	決算	差異	備考
収入の部				
年会費 (普通会员)	800,000	642,000	158,000	注 1
年会費 (学生会員)	90,000	67,000	23,000	注 2
年会費 (賛助会員)	130,000	110,000	20,000	注 3
年会費 (購読会員)	40,000	30,000	10,000	注 4
入会金	10,000	10,000	0	5 名
雑収入	20,000	136,669	△ 116,669	著作権使用, 日本動物遺伝育種学会・在来家畜研究 会合同シンポジウムでの謝金の在来家 畜研究会負担分
当期収入合計 (A)	1,090,000	995,669	94,331	
前年度繰越金 (B)	1,310,756	1,310,756	0	
収入合計 (A+B)	2,400,756	2,306,425	94,331	
支出の部				
印刷製本費	800,000	660,000	140,000	52 巻 1 号、2 号
通信費	45,000	57,415	△ 12,415	サーバー利用料、会誌送付
大会開催補助費	100,000	83,131	16,869	
事業費	150,000	68,420	77,580	J-STAGE
消耗品費	15,000	32,445	△ 17,445	封筒
旅費交通費	20,000	0	20,000	
諸謝金	50,000	50,000	0	日本動物遺伝育種学会・在来家畜研究 会合同シンポジウムでの謝金
会議費	3,000	0	3,000	
雑費	2,000	5,485	3,485	振込手数料、年会費過払金の返金
諸会費	45,000	41,400	3,600	日本農学会分担金
当期支出合計 (C)	1,230,000	998,296	227,704	
次年度繰越金 (D)	1,170,756	1,308,129	△ 133,373	
支出合計 (C+D)	2,400,756	2,306,425	94,331	
当期収支差額 (A-C)	△ 140,000	△ 2,627	△ 133,373	

注 1 : 2025 年度 1 名、2024 年度 30 名、2023 年度 60 名、2022 年度以前 41 名、18,000 円入金不足

注 2 : 2024 年度 2 名、2023 年度 18 名、2022 年度 1 名、4,000 円過払い (2 名×2000 円)

注 3 : 2024 年度 10 口、2023 年度 1 口、注 4 : 2024 年度 3 口

	論文数	ページ数	印刷製本費	J-STAGE
2023 年度	3	22	¥660,000	¥68,420
2022 年度	4	31	¥783,200	¥64,680
2021 年度	5	40	¥721,160	¥68,640
2020 年度	7	64	¥946,000	¥118,140
2019 年度	4	27	¥557,700	¥43,120
2018 年度	4	35	¥542,376	¥43,200

(資料 3)

2023 年度特別会計 収支決算報告（案） 2023. 10. 1－2024. 9. 30

科目	予算	決算	差異
収入の部			
雑収入（利息）	30	36	△ 6
当期収入合計（A）	30	36	△ 6
前年度繰越金（B）	3, 921, 518	3, 921, 518	0
収入合計（A+B）	3, 921, 548	3, 921, 554	△ 6
支出の部			
セミナー開催補助費	1, 000, 000	0	1, 000, 000
雑費（振込手数料）	800	0	800
当期支出合計（C）	1, 000, 800	0	1, 000, 800
次年度繰越金（D）	2, 920, 748	3, 921, 554	△ 1, 000, 806
支出合計（C+D）	3, 921, 548	3, 921, 554	△ 6
当期収支差額（A－C）	△ 1, 000, 770	36	△ 1, 000, 806

2024 年度事業計画 2024. 10. 1－2025. 9. 30

1. 年次大会（第 25 回）の開催

日 時：2024 年 11 月 23 日（土）－24 日（日）
会 場：東京大学 弥生キャンパス
大会長：間 陽子（東京大学）
副大会長：松本 安喜（東京大学）
実行委員長：竹嶋 伸之輔（十文字学園女子大学）
副実行委員長：松浦 遼介（東京大学）

・プログラムの概要

2024 年 11 月 23 日（土）
日本動物遺伝育種学会第 25 回大会
特別賞選考対象発表・一般発表（口頭）
2024 年 11 月 24 日（日）
日本動物遺伝育種学会シンポジウム
テーマ：私たちの地球の未来のためのテクノロジー ～遺伝育種への可能性～

2. 委員会・理事会の開催

・2024 年度円卓理事会
2024 年 11 月 22 日（金）東京大学 弥生キャンパス

3. 学会誌の発行

・第 53 巻 1 号（2025 年 2 月発行予定）
・第 53 巻 2 号（2025 年 8 月発行予定）

4. 日本動物遺伝育種学会・在来家畜研究会 合同シンポジウムの開催

日 時：2025 年 9 月 12～15 日（詳細未定）
会 場：岐阜大学
シンポジウムテーマ：未定

(資料 5)

2024 年度一般会計 予算 (案) 2024. 10. 1－2025. 9. 30

科目	予算	前年度予算	差異	備考
収入の部				
年会費 (普通会员)	800,000	800,000	0	160 名
年会費 (学生会員)	90,000	90,000	0	30 名
年会費 (賛助会員)	120,000	130,000	△ 10,000	9 団体 12 口
年会費 (購読会員)	30,000	40,000	△ 10,000	3 団体 3 口
入会金	10,000	10,000	0	5 名
雑収入	100,000	20,000	80,000	著作権使用料等
当期収入合計 (A)	1,150,000	1,090,000	60,000	
前年度繰越金 (B)	1,308,129	1,310,756	△ 2,627	
収入合計 (A+B)	2,458,129	2,400,756	57,373	
支出の部				
印刷製本費	400,000	800,000	△400,000	学会誌 (53 巻 1 号、2 号) の オンライン化
通信費	45,000	45,000	0	学会からの連絡の送付
大会開催補助費	100,000	100,000	0	
事業費	150,000	150,000	0	J-STAGE、学会長特別賞 i-Vote (2023 年度選挙用)
消耗品費	15,000	15,000	0	事務用品
旅費交通費	20,000	20,000	0	会議出席
諸謝金	50,000	50,000	0	原稿料、講演料
会議費	3,000	3,000	0	理事会等
雑費	2,000	2,000	0	振込手数料
諸会費	45,000	45,000	0	日本農学会
当期支出合計 (C)	830,000	1,230,000	△400,000	
次年度繰越金 (D)	1,628,129	1,170,756	457,373	
支出合計 (C+D)	2,458,129	2,400,756	57,373	
当期収支差額 (A-C)	320,000	△ 140,000	60,000	

「参考：著作権収入の推移 (雑収入)」

	学術著作権協会	医学中央雑誌刊行会	メテオ
2018	39,022	1,296	640
2019	50,065	0	0
2020	87,790	660	0
2021	121,626	0	0
2022	103,593	0	0
2023	111,669	0	0

(資料 6)

2024 年度特別会計 予算（案） 2024. 10. 1－2025. 9. 30

科目	予算	前年度予算	差異
収入の部			
雑収入（利息）	30	30	0
当期収入合計（A）	0	0	0
前年度繰越金（B）	30	30	0
収入合計（A+B）	3,921,554	3,921,518	36
支出の部			
セミナー開催補助費	1,000,000	1,000,000	0
雑費（振込手数料）	800	800	0
当期支出合計（C）	0	0	0
次年度繰越金（D）	1,000,800	1,000,800	0
支出合計（C+D）	2,920,784	2,920,748	36
当期収支差額（A－C）	3,921,584	3,921,548	36

日本動物遺伝育種学会第 26 回大会開催について

第 26 回大会につきましては、下記での開催を予定しております。

開催場所：十文字学園女子大学 〒352-8510 埼玉県新座市菅沢 2-1-28

大会運営組織：

日本動物遺伝育種学会第 26 回大会実行委員会

大会長： 竹嶋伸之輔（十文字学園女子大学）

副大会長： 間 陽子（東京大学）

実行委員長： 松浦遼介（東京大学）

1. 理事会

日 時 2025 年 11 月下旬頃 （金）

場 所 十文字学園女子大学

2. 日本動物遺伝育種学会第 26 回大会

日 時 2025 年 11 月下旬頃 （土）

場 所 十文字学園女子大学

①講演会場

②ポスター会場

③ランチョンセミナー

3. 日本動物遺伝育種学会シンポジウム

テーマ Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD) 学説と遺伝育種（仮題）

日 時 2025 年 11 月下旬頃 （日）

場 所 十文字学園女子大学

9：00～11：50 講演

11：50～12：00 総合討論

日本動物遺伝育種学会 会 則

(名称)

第1条 本会は、日本動物遺伝育種学会と称する。

2) 本会の事務局は、会長の所属する機関におく。

(目的)

第2条 本会の目的は、統計遺伝学と分子遺伝学を統合的に発展させ、より高度な育種戦略を構築するとともに、DNA 情報を利用する産業やライフサイエンスへも貢献できる体制を整えることである。そのために家畜・家禽、実験動物、野生動物、水産動物などの各種動物についての分子生物学や遺伝育種学並びに育種の実際、遺伝資源の保存と利用などに関する研究および技術開発を推進し、研究者・実務者相互の交流と協力並びに成果の普及を図る。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 年次大会を開催し、総会、研究発表会、シンポジウムなどを行う。
2. 学会誌その他の刊行
3. 国際交流の推進
4. 研究プロジェクトの組織化と推進
5. その他必要と認められる活動

(会員)

第4条 本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員および購読会員とし、正会員は普通会员と学生会員からなる。会員は学会誌の配布を無料で受ける。正会員と名誉会員は、研究発表会および学会誌において研究成果を発表することができる。

- 2) 普通会员は、入会金2,000円を納めて入会し、年会費を納めるものとする。
- 3) 学生会員は、指導教員の推薦により入会し、年会費を納めるものとする。
- 4) 名誉会員は、本会の発展と動物遺伝育種学および育種に功労のあった者で、理事会が総会に推薦し、総会の決議により決定される。
- 5) 賛助会員は、本会の目的に賛同する団体または機関とする。
- 6) 購読会員は、学会誌のみの配布を受けるものとする。
- 7) 年会費については、普通会员5,000円、学生会員3,000円、賛助会員10,000円(一口につき)、購読会員10,000円を前納する。名誉会員は会費を必要としない。
- 8) 年会費二口以上を納める賛助会員は研究発表会およびシンポジウムに1名の招待を受ける。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

会長(1名) 副会長(2名) 理事(約25名) 監事(2名) 学会誌編集委員長(1名)
企画運営委員(理事)(約10名)

- 2) 理事および監事は正会員から選出し、その他の役員は理事の中から選出する。その選出方法等については、本会「運営申し合わせ」に別途定める。
- 3) 会長は本会を代表し、本会の目的を達成するための活動を積極的に推進する。
- 4) 副会長は会長を補佐するとともに、会長に事故ある時または長期不在の時、その任務を代行する。
- 5) 理事および監事は理事会を組織し、会長を議長とする。理事と監事は相互に兼任できない。監事は本会の会計を監査する。
- 6) 学会誌編集委員長は、セクションエディター数名を指名して学会誌編集委員会を組織し、学会誌の編集、刊行等を行う。

- 7) 企画運営委員は、企画運営委員会を組織し、委員長は会長とする。理事会、総会等の審議事項の調整、整理、並びに年次大会および「特別会計（第7条、第3項、第4項）」に関する事業を企画、運営する。
- 8) 役員の任期は1期2年とし、再任を妨げない。ただし、会長の再任は1回を限度とし、連続する任期は2期4年を越えない。

(運営)

第6条 本会は、総会を原則として毎年1回開催し、会務の承認、会則の改正、役員選出、その他を行う。

- 2) 総会は、正会員の4分の1以上の出席をもって成立する。ただし、委任状による出席も認める。議決には出席正会員の過半数の賛成を必要とする。
- 3) 理事会は、年2回開催する。
- 4) 理事会は、理事の2分の1以上の出席をもって成立する。ただし、委任状による出席も認める。議決には出席理事の過半数の賛成を必要とする。
- 5) 企画運営委員会は、議決組織ではなく、特に成立条件を定めない。
- 6) 必要あるときは臨時総会あるいは理事会を開くことができる。

(会計)

第7条 本会を運営するために、一般会計と特別会計をおく。

- 2) 一般会計の収入は、普通会员の入会金と正会員および賛助会員の年会費等とし、第3条に定める事業に必要な経費に充当することができ、監事が監査をする。
- 3) 特別会計の収入は、ISAG29(2004)日本組織委員会からの寄託基金、一般会計からの繰入金、賛助金、その他寄付金等とし、本会が主催、共催あるいは後援等をする、次の各号の学術事業に必要な経費の一部または全部に充当することができる。
 1. 動物遺伝育種シンポジウムの開催
 2. 最先端遺伝育種セミナーなど若手向け学術事業
 3. プロシーディングスなどの印刷、発行
 4. その他、本会の目的を達成するために必要な特別事業
- 4) 特別会計は、企画運営委員会の企画、提案等を理事会が承認したうえで運用し、監事が監査をする。

(雑則)

第8条 本会の運営は、この会則に定める事項のほか、本会「運営申し合わせ」に定める事項に従って行う。

- 2) 事務局の事務は、会長が指名する幹事（総務、会計、ネットワーク・広報担当（各1名））が行う。
- 3) 事業年度は10月1日から翌年の9月30日までとする。

付則 1. 本会則は2000年11月18日制定、同日施行する。

2. 2005年9月11日 一部改正、同日施行

ただし、本会則にある企画運営委員会は、2006年度総会までの間、改正前会則にある動物遺伝育種シンポジウム組織委員会委員をもって組織する。

3. 2006年11月18日 一部改正、同日施行
4. 2007年11月24日 一部改正、同日施行

投稿規程

- 1) 投稿論文は動物（家畜、家禽、実験動物、魚類など）の遺伝一般に関わるもので、本誌に掲載の価値のある内容をもち、本投稿規程に従ったものでなければならない。また、他誌に未発表のものに限る。
- 2) 本誌に掲載する論文の内、総説、ミニレビュー、解説は編集委員会が依頼するものとするが、一般の寄稿も歓迎する。ただし、掲載の適否は編集委員会が判断する。
- 3) 論文の適否は編集責任者（セクション・エディター）の選んだレフェリー〔2 名〕の校閲を受けた後、セクション・エディターと当該レフェリーの合議により決定される。したがって、原稿を返却したり、訂正を求めたりする事がある。
- 4) 本誌に掲載された論文の著作権は日本動物遺伝育種学会に帰属する。
- 5) 原著論文〔短報も含む〕は英文または和文とし、別に定める手引き（項目 12）にしたがって作成する。
- 6) 原著論文は刷り上がり 6 ページ以内とする。〔英文では 700 語、和文では 2500 字が刷り上がり 1 ページに相当する〕
- 7) 短報は次の規定に従う。

短報は予報、速報などとする。刷り上がり 2 ページを超えないものとする。短報の構成は原著論文に準ずるが、要約は不要。
- 8) 論文の掲載費用

項目 6 と 7 のページ制限を越えないものに付いては無料とし、それを超えるものは、実費を著者負担とする。印刷について、特別の指定のあるものは、その費用の総てを著者負担とする。
- 9) 別刷りに付いては、基本単位を 100 部とし、必要部数を表紙に記入して申し込む。その実費は著者負担とする。
- 10) 校正について

著者による校正は 1 回とする。校正の際、字句の追加、削除、または文章の移動は許されない。著者校は指定された期日までに返送しなければならない。
- 11) 編集・出版は電子情報により行うようにし、経費の節減を図る。
- 12) 原稿の作成の手引き

投稿論文は英文または和文とし、つぎの規定に従って書く。

 - （1）英文の場合：英文原著論文の構成は、第一頁目に英語で「表題」、「著者名」（複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩に数字を付す）、「所属機関名」（複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩に数字を付す）、「その所在地」（所属機関に準ずる）、要約、キーワード（5 単語以内）の順で表記する。次いで、日本語で表題、著者名、所属機関名とその所在地を表記する（この部分は、日本語目次に使用する）。続いて、英語で連絡者（この部分は脚注となる）：氏名、所属、〒番号、住所、（e-mail アドレス）を表記する。次いで、英語でランニングタイトル（英語で語間スペースを含め 40 字以内）を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。
 - （2）和文の場合：和文原著論文の構成は、第一頁目に英語で「表題」、「著者名」（複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩に数字を付す）、「所属機関名」（複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩に数字を付す）、「その所在地」（所属機関に準ずる）、要約、キーワード（5 単語以内）の順で表記する。次いで、日本語で表題、著者名、所属機関名とその所在地、要約、連絡者（この部分は脚注となる）：氏名、所属、〒番号、住所、（e-mail アドレス）を表記する。続いて、日本語でランニングタイトル（日本語で 20 字以内）を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。
 - （3）投稿
 - ・投稿は、電子メールによる。
 - ・原稿はパーソナル・コンピュータを用い、Microsoft Word により作成する。
 - ・論文審査および編集・出版を可能な限り電子情報により行うため、当該セクション・エディターへ電子メール・添付ファイルで送付する。適当なセクション・エディターが見つからない場合は編集委員長に送付する。
 - ・ファイルは著者が保管し、セクション・エディターの指示に従って修正し、期日以内にセクション・エディターに電子メールで送付する。
 - ・受理が決定した場合には、編集委員長の指示に従い、そのファイルを印刷担当部署へ電子メール・添付ファイルで送付する。
 - ・郵送による投稿はこれを受け付けない。
 - ・セクション・エディターは原稿の受領および審査の結果を編集委員長に速やかに連絡する。

- (4) 英文論文は A4 判の用紙に上下、左右とも約 2.5 cmの余白を残し、12 ポイント／ダブルスペースでタイプする。1 ページ当たり 26 行とする。英文は十分推敲し、かつ科学論文作成に造詣の深いネイティブ・スピーカーの校閲を受けたものが望ましい。
- (5) 和文論文は A4 判の用紙に 35 字× 25 行の横書きとする。その際、現代かな使いと常用漢字を用いる。数字は総て、算用数字を用いる。また、諸単位の略号は原則として SI 単位を用いる。
- (6) 引用文献リストは次ぎの手順により作成する。
- 文献の引用は著者名〔全員〕、発行年、表題、雑誌名、巻、最初一最終ページの順とする。
Drori D, Loosli JK. 1959. Influence of fistulation on the digestibility of feeds by steers. *Journal of Animal Science*, 18: 206 — 210.
佐々木清綱・松本久喜・西田周作・茂木一重. 1950. 牛の血液型に関する研究. *日本畜産学会報*, 27 : 73 — 76.
 - 単行本の記載は著者名、発行年、書名、版、引用ページ、出版社、発行地の順とする。分担執筆の場合は、書名の後に“…の項執筆”と書き、編集または監修者の名前を入れる。
Nalbandov AV. 1963. *Advances in Neuroendocrinology*. 2nd ed. 156 — 187. University of Illinois Press. Urbana, IL.
Folly SJ, Malpress FH. 1948. Hormonal control of mammary growth. In: *The Hormones Vol. 1*. (Pincuss G, Thimann KV eds.) 695 — 743. Academic Press. New York.
諏訪良夫. 1977. 定量形態学. 第 1 版. 12 — 23. 岩波書店. 東京.
 - 文献リストは、筆頭著者のアルファベット順に整理する。同一著者の複数の文献の場合は発表年順に整理し、1992a、1992b、1992c の様に年の後にアルファベットを付け整理する。
 - 本文中には文献を引用した個所の直後に（著者名と年号）をカッコ付きで挿入する。本文中に著者名を引用する時は 2 名までは連記し、3 名以上では英文では“*et al.*”を、和文では“ら”と略記し、直後に年号を括弧付きで挿入する。
例 英文 :
---(Nalbandov 1963), --- (Smith *et al.* 1950; Drori & Loosli 1958).
Nalbandov (1963) Drori and Loosli (1958), Smith *et al.* (1950).
和文 :
-- と報告した (Nalbandov 1963)。 --- と報告している (Smith ら 1950; Drori と Loosli 1958)。
Nalbandov (1963) は ---、Drori と Loosli (1958) は ---, Smith ら (1950) は ---
 - 雑誌名は略さない。
 - 文献の記載には特に注意を払い、正確を期すこと。
- (7) 図版の原図および表について
- 図および表はそのまま印刷ができるものにする。
 - 表は A4 版の白紙に一枚ずつ英語で記入する。マイクロソフトワードを用いて表を作成できるが、特殊な飾りは用いない。また、パワーポイントを用いて表を作成しない。
 - 図の説明はすべて英文で、別紙にまとめ、表と共に原稿の最後にまとめる。
 - 本文中に図、表の挿入場所を指示する。
- (8) 要約について
- 英文論文の Abstract は 400 語以内とする。
 - 和文論文の要約は 600 字以内とする。さらに、和文論文の場合には 400 語の英文抄録をつける。

2003 年 11 月 7 日 改正施行
2005 年 5 月 20 日 改訂施行

「動物遺伝育種学研究」ミニレビュー執筆手引き

- 1) 投稿論文は動物（家畜、家禽、実験動物、魚類など）の遺伝一般に関わるもので、本誌に掲載の価値のある内容を持ち、本手引きに従ったものでなければならない。
- 2) 本誌に掲載するミニレビュー（あるいは総説、解説）は編集委員会が依頼するものとするが、一般の寄稿も歓迎する。ただし、掲載の適否は編集委員会が判断する。
- 3) ミニレビュー掲載は編集委員会が査読したあと決定される。したがって、原稿を返却したり、訂正を求めたりする事がある。
- 4) 本誌に掲載された論文の著作権は日本動物遺伝育種学会に帰属する。
- 5) ミニレビューは英文または和文とし、別に定める手引き（項目 11）にしたがって作成する。
- 6) ミニレビューは刷りあがりページの制限はないが、6 ～ 10 ページ程度を目安とする。
〔英文では 700 語、和文では 2500 字が刷り上がり 1 ページに相当する〕
- 7) 論文の掲載費用
別刷り 100 部を含み基本的に無料とするが、印刷について特別の指定のあるものは、その費用を著者負担とする場合がある。
- 8) 別刷りに付いては、基本単位を 100 部とし、100 部を越える場合にはその実費は著者負担とする。
- 9) 校正について
著者による校正は 1 回とする。校正の際、字句の追加、削除、または文章の移動は許されない。著者校は指定された期日までに返送しなければならない。
- 10) 編集・出版は可能な限り、電子情報により行うようにし、経費の節減を図る。
- 11) 原稿の作成の手引き

ミニレビュー投稿論文は和文または英文とし、つぎの規定に従って書く。

（１）和文の場合：

ミニレビューの構成は、第一頁目に日本語で「表題」、「著者名」（複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩に数字を付す）、「所属機関名」（複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩に数字を付す）、「その所在地」（所属機関に準ずる）、連絡者（この部分は脚注となる：）氏名、所属、〒番号、住所、（e-mail アドレス）を表記する。続いて英語で、「表題」、「著者名」、「所属機関名」と「その所在地」を表記する（複数著者、複数機関の区別は日本語表記と同様に行う）。次いで、ランニングタイトル（日本語で 20 字以内）を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。要約とキーワードは入れない。

（２）英文の場合：

ミニレビューの構成は、第一頁目に英語で「表題」、「著者名」（複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩数字を付す）、「所属機関名」（複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩数字を付す）、「その所在地」（所属機関に準ずる）、連絡者（この部分は脚注となる：）氏名、所属、〒番号、住所、（e-mail アドレス）を表記する。次いで、ランニングタイトル（英語で語間スペースを含め 40 字以内）を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。続いて日本語で、「表題」、「著者名」、「所属機関名」と「その所在地」を表記する（複数著者、複数機関の区別は日本語表記と同様に行う）。要約とキーワードは入れない。

（３）投稿

投稿は、電子メールによる。

原稿はパーソナル・コンピュータを用い、Microsoft Word 等により作成する。査読および編集・出版を可能な限り電子情報により行うため、編集委員長に電子メール・添付ファイルで送付する。ファイルは著者が保管し、編集委員会の指示に従って修正し、受理が決定したものについて、そのファイルを編集委員長の指示にしたがい印刷担当部署へ電子メール・添付ファイルで送付する。なお、郵送による投稿はこれを受け付けない。

（４）和文論文は A4 判の用紙に 35 字× 25 行の横書きとする。その際、現代かな使いと常用漢字を用いる。

数字は総て、算用数字を用いる。また、諸単位の略号は原則として SI 単位を用いる。

（５）英文論文は A4 判の用紙に上下、左右とも約 2.5cm の余白を残し、12 ポイント／ダブルスペースでタイプする。1 ページ当たり 26 行とする。英文は十分推敲し、かつ科学論文作成に造詣の深いネイティブ・スピーカーの校閲を受けたものが望ましい。

(6) 引用文献リストは次ぎの手順により作成する。

- a. 文献の引用は著者名〔全員〕、発行年、表題、雑誌名、巻、最初―最終ページの順とする。

Drori D, Loosli JK. 1959. Influence of fistulation on the digestibility of feeds by steers. *Journal of Animal Science*, 18: 206–210.

佐々木清綱・松本久喜・西田周作・茂木一重. 1950. 牛の血液型に関する研究. 日本畜産学会報, 27 : 73–76.

- b. 単行本の記載は著者名、発行年、書名、版、引用ページ、出版社、発行地の順とする。分担執筆の場合は、書名の後に“…の項執筆”と書き、編集または監修者の名前を入れる。

Nalbandov AV. 1963. *Advances in Neuroendocrinology*. 2nd ed. 156 – 187. University of Illinois Press. Urbana, IL.

Folly SJ, Malpress FH. 1948. Hormonal control of mammary growth. In: *The Hormones Vol. 1*. (Pincuss G, Thimann KV eds.) 695 – 743. Academic Press. New York.

諏訪良夫. 1977. 定量形態学. 第 1 版. 12 – 23. 岩波書店. 東京.

- c. 文献リストは、筆頭著者のアルファベット順に整理する。同一著者の複数の文献の場合は発表年順に整理し、1992a、1992b、1992c の様に年の後にアルファベットを付け整理する。
- d. 本文中には文献を引用した個所の直後に（著者名と年号）をカッコ付きで挿入する。本文中に著者名を引用する時は 2 名までは連記し、3 名以上では英文では“*et al.*”を、和文では“ら”と略記し、直後に年号を括弧付きで挿入する。

例 英文：

---(Nalbandov 1963), ---(Smith *et al.* 1950; Drori & Loosli 1958).

Nalbandov (1963) Drori and Loosli (1958), Smith *et al.* (1950).

和文：

-- と報告した (Nalbandov 1963)。---- と報告している (Smith ら 1950; Drori と Loosli 1958)。

Nalbandov (1963) は ---、Drori と Loosli (1958) は ---, Smith ら (1950) は ---

- e. 雑誌名は略さない。
- f. 文献の記載には特に注意を払い、正確を期すこと。

(7) 図および表について

- a. 図および表はそのまま写真製版できるようにするとともに、本文中に図表の挿入場所を指示する。
- b. 図および表の説明はすべて和文では和文（または英文）、英文では英文とする。マイクロソフトワードを用いて表を作成できるが、特殊な飾りは用いない。また、パワーポイントを用いて表を作成しないこと。

(8) ミニレビュー原稿の送付先

原稿は編集委員長に電子メール・添付ファイルで送付する。

2004 年 5 月 28 日 編集委員会作成

2005 年 5 月 20 日 改訂施行

★ 編集委員長

笹崎 晋史

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1、神戸大学大学院農学研究科

TEL: 078-803-5801、sasazaki@kobe-u.ac.jp

☆ セクション・エディター

小野木 章雄（統計遺伝学分野）

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1 番 5、龍谷大学農学部植物生命科学科

TEL: 077-599-5719、onogiakio@agr.ryukoku.ac.jp

下桐 猛（分子生物学分野）

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24、鹿児島大学農学部 生物生産学科

TEL: 099-285-7111、simogiri@agri.kagoshima-u.ac.jp

谷口 雅章（QTL 解析・家畜分野）

〒305-0901 茨城県つくば市池の台 2、農研機構畜産研究部門

TEL: 029-838-8627、masaakit@affrc.go.jp

坂本 崇（QTL 解析・水産分野）

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7、東京海洋大学海洋科学部海洋生物資源学科

TEL: 03-5463-0450、takashis@kaiyodai.ac.jp

西堀 正英（遺伝資源分野）

〒739-8528 広島県東広島市鏡山 1-4-4、広島大学大学院統合生命科学研究科

TEL: 082-424-7992、nishibo@hiroshima-u.ac.jp

日本動物遺伝育種学会
賛 助 会 員
(2025 年 6 月 1 日現在)

(一社) 家 畜 改 良 事 業 団
(公財) 競 走 馬 理 化 学 研 究 所
グ ロ ー バ ル ピ ッ グ フ ァ ー ム (株)
ジ ェ ノ プ ラ ン ジ ャ パ ン (株)
(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル
(公社) 全 国 和 牛 登 録 協 会
(公社) 畜 産 技 術 協 会
(一社) 日 本 あ か 牛 登 録 協 会
(一社) 日 本 ホ ル ス タ イ ン 登 録 協 会

(五十音順)

動物遺伝育種研究編集委員会

学会誌編集委員長

笹崎 晋史（神戸大学農学研究科）

セクション・エディター

統計遺伝学

小野木 章雄（龍谷大学農学部植物生命科学科）

分子生物学

下桐 猛（鹿児島大学農学部生物生産学科）

QTL 解析

（家畜分野） 谷口 雅章（農研機構畜産研究部門）

（水産分野） 坂本 崇（東京海洋大学海洋科学部海洋生物資源学科）

遺伝資源

西堀 正英（広島大学大学院統合生命科学研究科）

編集のねらい

日本動物遺伝育種学会は会員相互の交流を図り、もって動物の遺伝育種分野の研究と技術の発展に寄与する事を目的として、会報を発行する。本誌は、会員の研究成果の公表の場として原著論文の掲載を行うが、それと共に、今後、一大進展が予想されるポリジェニックな形質の解析やポストゲノムシーケンス時代を見据え、総説、ミニレビュー、解説などを通じて、将来展望の把握が可能になるように企画する。また、読み物としても興味が持てるように、また、会員参加型の機関紙となるように充実を図る。

動物遺伝育種研究（53 巻 2 号）

The Journal of Animal Genetics (Vol. 53, No.2)

発行日 2025 年 8 月 1 日

編集兼 日本動物遺伝育種学会発行人

発行人 代表者 横井伯英

発行所 日本動物遺伝育種学会事務局

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科 動物遺伝育種学分野

〒305-0901 茨城県つくば市池の台 2

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 食肉用家畜研究領域

TEL:029-838-8627 FAX:029-838-8606

E-mail: support@jsabg.sakura.ne.jp